

学校法人 滋慶学園 東京スポーツ・レクリエーション専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2024年度評価】

2024年度自己点検自己評価(2024年4月1日～2025年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教育 理 念 ・ 目 的 ・ 育 成 人 材 像	1-1-1 理念・目的・育人材像は定められているか	3	教育理念・目的・育人材像は、教育指導要領及び学生便覧にて明文化・文章化されている。 職業人教育の基本である「今日も笑顔で挨拶を」の標語を全ての教室に掲示して、学生、職員が日々実践できるようにしている。	学校法人滋慶学園は「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション(使命)にしている。建学の理念①実学教育 ②人間教育 ③国際教育を実践し、 4つの信頼 (①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼) を得られるよう学校運営をしている。	3	●全国に約80校を展開している滋慶学園は、組織として“職業人教育を通して社会に貢献する”ことを大きな目標にしています。 その為に実学教育・人間教育・国際教育を教育の理念に掲げて、さらに学生・保護者からの信頼。産業界からの信頼。高等学校からの信頼。地域からの信頼。を得て学校は発展するとの理念には共感がもてます。 ●トレーナーとしての人間力育成にも結びついている。即戦力となる人材の育成が実現されている。事業計画の共有・実行体制が確立されており、教育機関としての持続性と進化を支える基盤が整っている。教育理念の浸透、業界連携、実践教育、将来構想の全てがバランス良く機能しており、専門職養成機関として完成されている。 ●貴校にお伺いした際、職員の方々、学生の皆さんが挨拶をしてくださるので、教育が行き届いていると感じます。 ●卒業後の社会人生活を見据えコミュニケーションにまで学生支援をしていることは業界ニーズにも合致していてすばらしい。継続した取り組みを期待します。
	1-1-2 育人材像は業界等の人材ニーズ像に適合しているか。育成に関連業界の協力を得ているか。	3	幅広いスポーツ職種の就業に対応できる課程(学科)を設置し、各課程別に養成目的、教育目標を掲げ、学年暦、教科課程を定めている。	各学科で企業や団体との教育提携を進めており各過程ごとに教育課程編成委員からの意見をカリキュラムに反映している。コミュニケーションの重要性についてお話をいただく機会が多く、導入教育やキャリア教育の中でアイスブレイクやチームビルディングなど、コミュニケーションのきっかけになる取り組みを多く取り入れている。 スポーツ業界は変化が早いため、講師との対話や業界訪問で積極的に情報を取っている。		
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか。	3	学内の施設・設備を活用し、学生と教員が企業と連携して地域スポーツクラブCLUB-TSRやARROWZジム＆ラボを運営しており、この教育活動を業界、高等学校に広報し、共同事業の活性化や連携を強化している。	建学の理念から成り立つ教育目標に基づいて、東京スポーツ・レクリエーション専門学校は、多様化するスポーツ業界、レクリエーション業界、医療業界で活躍する専門家に必要な知識・技術を身に付けることにより、生きがい、コミュニケーションの知識・技術で人々が健康で生きがいに満ちた社会の実現を目指している。		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか。	3	毎年事業計画を作成し、5カ年計画を見直している。事業計画の研修会には全教職員が参加し、組織目的や運営方針の理解を図っている。	学校全体の事業計画を達成するために、各部署毎にも事業計画を作成し運営方針、実行方針を決定している。 事業計画を策定するには業界の動向やニーズが重要となるため特別講師等、職員・学生ともに業界の講話を聞く機会を多く持っている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
2 学校運営	2-2-1 運営方針は定められ、教職員に周知・浸透されているか	3	事業計画の中で運営方針を明記し、定量目標・定性目標を達成するために、実行方針、実行計画を明記し、教職員研修で周知徹底している。	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てることと、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底している。学校事業計画を達成することを目的として各部署の実行計画、運営方針を立てている。	3	●全国に約2721校ある専門学校の中で、文部科学省から職業実践専門課程を有する学校は全体の40%しかなく、滋慶学園グループの90%が職業実践専門課程を習得していることは、学校運営が的確になされている証ですから、このことを見ても高く評価されるべきだと思います。 学校法人ですから全体の運営方針は理事長をはじめとする理事会・評議会・各委員会等の会議及び打ち合わせで確認され、その計画も長期計画・中期計画と内容を考えながら進められていることは他の学校も見習うべき運営方針だと思います。 今後は教育人材の確保のため・教職員の質の向上のために教職員の待遇改善をはかり、有能な人材を集める組織努力も必要となる時代だと思っています。 ●現場対応力を重視するスポーツ・トレーナー養成機関として理想的である。 全体として、理念・計画・組織・人事・情報の各側面において整合性と持続性が確保されており、専門職教育を支える堅固な運営体制が構築されている。
	2-3-1 事業計画は理念等を達成できるよう定められているか	3	学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。 また、事業計画を教職員が自立的に計画・決定し全員で共有している。 その上で、職場運営が実行されていく。	事業計画の構成は以下の通りである。 ①組織目的②運営方針③実行方針④定量目標⑤定性目標⑥実行計画⑦組織図(単年度)⑧職務分掌⑨部署ごとの計画及びスケジュール⑩附帯事業計画⑪職員の業績評価システム⑫意思決定システム⑬収支予算書		
	2-4-1.2 理事会は適切に開催されているか。また、運営組織や意思決定機能は体系化され、効率的なものになっているか	3	理事会は年4回実施されており、各理事会毎に組織全体に議案の確認をしている。また、議事録は関係部署に公開されている。 運営組織は、実行計画の最適化の観点から見直されており、その全体像は、事業計画書の組織図に示されている。	運営組織は、実行計画の最適化の観点から見直されている。その全体像は、事業計画書の組織図に示されており、その中心は事務局長となっている。 運営のチェックは、各会議で行い、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを構築している。		
	2-5-1 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	採用計画、人材育成計画は事業計画で定められている。 目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。賃金の決定は目標管理制度を基準としている。	採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。目標は個人のスキルにあった設定となっているかを学校責任者および運営本部長の決済を要する仕組みとなっている。		
	2-6-1 意思決定システムは確立されており明確になっているか。	3	意思決定のシステムは事業計画書に明示している。また、職務分掌、各会議・研修の位置づけも明示し、事業計画の研修会では規則や規定等を確認している。また、会議で承認された決定事項を確実に実行していく為、締切りや担当責任者に確認をしながら業務を進めている。	事業計画書には職務分掌、各会議・研修の位置づけも明示し、事業計画の研修会では規則や規定等を確認している。また、会議で承認された決定事項を確実に実行していく為、締切りや担当責任者に確認をしながら業務を進めている。		
	2-7-1 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	専門学校基幹業務システム(IBM社製 i 5(アイファイブ)上に構築)によりデータベース管理をしている。 データベースは、①学籍簿 ②時間割 ③成績・出席 ④学費 ⑤入学希望者及び入学者情報 ⑥各種証明書 ⑦求人企業 ⑧就職実績 ⑨卒業生 ⑩学校会計 ⑪人事・給与 ⑫ファームバンク ⑬研修旅行 ⑭寮管理 ⑮健康管理 等により構築されいる。 このデータベースを使用するWebシステムとして、 ・教務・広報・就職 ・会計・勤怠 の各システムが本格的に稼動している。ダッシュボード機能を導入し、出願予測、退学予測等、構築したデータの利活用を行っている。 学園内にIT・DX推進委員会を置き各校から委員を選出し、教職員全体に向けた実務に紐づく研修を行っている。 広報・教育・就職・総務系の業務効率化を目的としている。	特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にブレがないようにシステム構築をしている。そのことが、退学防止、就職支援へとつながっている。IT・DX推進委員会が発足され、特に広報データの分析・予測等のデータ活用をしている。 また、行政から発信される調査資料もシステムから出力が可能となり、大幅な業務削減ができている。 学園全体で2023年度から全職員向けにIT・DX、生成AIの研修を実施をし、併せて「生成AI利活用におけるガイドライン」を作成している。実業務に落とし込んでいくには、予算的な問題もあり学校として何から取り組んでいくのかロードマップが必要とされる。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
3 教育活動	3-9-1,2 教育の目標・目的に沿った教育課程を編成し外部の意見も反映しているか。	3	教育課程の編成時には、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会での意見や評価、卒業生が勤める業界の方のヒヤリング、講師などからヒヤリングを実施て、業界動向などの分析シートを作成してから、カリキュラム編成作業に入る形になっている。カリキュラムの内容に沿って新たな委員を選任し、また在校生より、毎学期、授業アンケートを実施し、この結果についても教育課程に反映している。	各学科の教育目標は、常に業界のニーズを反映させるため業界調査、学科調査、競合調査を毎年秋季(カリキュラムプレゼン)に行い、そこで業界ニーズに確実に応えられる教育目標、育成人材像を設定している。	3	●教育課程の編成や学校としての目標設定、そして実行は適格に行われており安心できる活動です。 また担任の授業そのものがキャリア教育となり、年間を通して計画的にそして工夫された授業が展開されていることは高く評価できます。 さらに授業アンケートを実施して、授業内容の改善を図りつつ、有能な人材の講師募集にも精力的に活動していることも評価の材料です。 ●教育活動を生徒の皆さんに伝える前に職員の皆様にスポーツ、フィットネス業界を学ぶことを強く願います。キャリア形成には総合型スポーツクラブでの経験は総合学習として学ぶことが多いと考えます。 さらなる講師の質の向上と、教える立場の人材に学生を育てる一層の努力に期待しています。 ●貴校は業界のニーズや現場の声を教育内容に反映させ、学修成果・キャリア支援・授業改善まで一貫した教育体制を構築している。CLUB-TSRを軸とした「実践の場」を教育と連携させている点は素晴らしい。 ●講師と学生間のトラブルが起こっていないのは、授業アンケートやオープン教室など、日々の取組の成果だと感じます。 ●昨今はキャリア教育にありがちな「目標を据えて人生を歩め」という指導が学生に響かなくなってきている。プロティアンキャリア論のように”柔軟なキャリア形成”という考え方でw学生に伝えて欲しい。3年先の未来すら見通せない今の時代にはキャリア指導に携わる教員の方々にも先入観を捨てて柔軟に向き合っていたきたい。
	3-9-3 キャリア教育を行なうために教育内容等の工夫をしているか。	3	担任の授業がキャリア教育講座となり、入学前から在学中にかけ、自己肯定感を高められるシラバスを作り上げている。またCLUB-TSRがキャリア教育の実践の場でもある。 年間のカリキュラムを担当の授業が繋ぎ役になるようにシラバスの作成に学科長や教務部長が関わり確認していく。 また進捗状況は教育分科会で確認し成功事例を水平展開できるようにしている。 卒業してから1年後に卒業生に連絡し仕事に継続状況を確認している。併せて奨学金利用者には返還の状況も確認している。	キャリアロードマップを元に学科ごとの教育フローを作成し、学科それぞれの特色を踏まえた業界連携を中心としたキャリア教育を展開している。 また、年間を通して教職員のキャリア教育に対する知識、技術の習得を目指して、学校法人として研修を行っている。 職業訓練生が多く在籍する学科ではキャリアコンサルタントによる個別面談を行い、卒業後のキャリアを見据えた教育に力を入れている。		
	3-9-4 授業評価を実施し、授業改善に活用しているか。	3	前期・後期の各1回、学生に授業アンケートを実施している。評価体制としては、授業アンケート結果と、オープン授業(公開授業)を通して、各講師の専門性の把握及び評価を行い、フィードバックを行うことで改善を促している。	授業アンケートを実施し、教務部長もしくは学科長が講師と面談を行い、授業の問題点に対する課題提案をし、授業改善につなげている。また、定期開催される講師会議や全体会議を通して、成功事例の共有化も図っている。 また、定期試験の平均点が低い授業は問題を見極めるために必要に応じて講師と面談を実施している。動きの速い業界となるので、常に講師人材の発掘にアンテナを張っており、最先端の教育に意識を向けている。		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確にしているか。	3	成績評価及び単位認定基準は明確に定め学生便覧・教育指導要領に記載。 またオリエンテーション時学生にも伝えている。評価は6段階で行いGPAで成績分布も確認をしている。実習授業haルーブリック評価を導入している。	成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより『教育指導要領』及び『学生便覧』に明記し、職員や講師、学生にも周知徹底している。またそれに基づき学生指導・支援をおこなっている。教員、講師に向けて評価研修を行い公正な評価に努めている。		
	3-11-1,2 目標とする資格は教育課程上、計画に位置付け、取得の指導体制はあるか。	2	取得目標資格に向けての内容や資格対策授業については入学時に学生便覧にて詳細を説明して、資格取得の動機付け教育を行っている。資格合格プログラムは毎年見直しを実施。不合格者、卒後指導体制についても、ひとり一人の卒業生の状況に合わせた資格合格プログラムを策定して万全の体制をとっている。	各学科、資格合格に向けての資格対策プログラムを構築している。 学園全体で資格試験対策センターを設置しており、特にアスレティックトレーナーは資格合格に向けての指導方法、指導体制についての改善と向上を目的として年に数回の、資格対策研修会、勉強会を行っている。資格対策を担当する講師にも合格率を意識した授業展開を求めている。成果の出ない授業は講師を含めて内容の見直しを進め合格率を向上させることができた。		
	3-12-1,2,3 資格・要件を備えた教員を確保し、教員の資質向上の取組みを行なっているか。	3	学生指導要領に取得可能資格一覧を明示し学生に周知徹底するとともに、受験対策講座を担当する講師が職業観とともに試験対策授業を実施している。 学校と学園それぞれで教育の質向上を図るための研修が実施をしている。専任教員には専門分野における研修参加を義務付けている。	教員の資質向上を目的とした研修は校内や外部団体の研修会など数多く実施・参加している。担任研修、カウンセリング研修、新入職研修など、経験や部署に対応したプログラムになっている。事業計画作成時に研修対象者を選定し、職員の資質向上も計画的に行っている。 FD(ファカルティ・ベロップメント)研修では、新任教員に教授法、クラス運営開発をテーマとした資質向上を図っている。ベテラン教員にはカリキュラムの構築や教務組織運営等のそれぞれのステージにあった研修を行っている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
4 教育 成果	4-13-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	学科、専攻毎に月別内定目標を設定して、定点観察を行い必要に応じて対策を講じている。 学生就職活動状況表を活用し活動状況を学内にて共有把握している。 専門就職者数を毎月末に集計し、就職者数の把握及び対策を立て学生指導をしている。 企業に働きかけ学内説明会の実施や、就職希望企業での企業実習(インターン)を実施している。 内定届と内定通知を提出させ、卒業時には卒後進路報告書を提出させ正確な実態を把握し数値に過去全データを保管している。	就職に関する指導は卒業学年担任と「キャリアセンター」で行っている。キャリアセンターは、職業安定法第33条の2項による「学校等の行う無料職業紹介事業」に基づき、厚生労働大臣にその旨を届け出た上で行っている支援部署で、企業からの求人受付と公開・管理、企業の開拓および求人依頼、同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援等の生涯就職支援を実施している。インターンシップから内定に繋がることも多いため、学生の個別支援は関係性を重視するために主に担任が行っている。就職活動の状況数字は毎月会議で報告を行っているが、学生個々の活動状況はファイルにて共有されている。	3	●資格を取得して、各方面に就職している実績は素晴らしいものがあり高く評価できます。ただ気になるのは卒業して就職したスポーツに関する企業での働く期間です。若い人材が前面に出ていますから、ある程度の年齢になると人材の入れ替わりが激しいように思われます。これは長い周期で考えると職業の選択＝進路の選択(どの大学・どの専門学校だったら大丈夫だったのか)との疑問は大いに起きることだと思います。将来を見据えた指導者のあり方も教えると良いように思います。 ●教育成果において、特に就職支援の体系化と卒業生とのつながりは評価される。全体として、就職・資格・卒業生支援が「点」で終わらず「線」「面」として展開されており、実務現場で通用する専門職養成校として着実な成果をあげている。 ●AT(理論)、JATIなど全体的に資格取得率が向上していることは、非常に素晴らしいと思います。 ●的確な対策が確実な成果に繋がっていて、今回の一連のお話の中で最もすばらしい実績と感じた。継続して取り組んで欲しい。
	4-14-1 資格取得率の向上が図られているか	2	アスレティックトレーナー資格取得を目指す学生への具体的な取り組みは、過去問題の解答・解説を作成し週に数回の補習を実施、その後模擬試験を行い、点数の伸びない学生には少人数制の補講を行うなど、合格に向けて指導体制の強化を実施しているが、今後も更なる工夫が必要である。 学園グループ校の同一学科と構成している教育部会では、e-ラーニングへの作問、統一模擬試験作成・分析など学園のスケールメリットを活かし、資格合格率向上への取り組みを継続している。 そのほかの資格試験については、単位制の利点を活かしながら、対策講座の参加希望者を募る、講師には合格率向上に向けて意識を高められるような授業の工夫をしてもらうなどの対策をしている。	全国にある滋慶学園グループのスポーツ系9校の学校による教育部会などでトレーナー系の学校価値に繋がるアスレティックトレーナー試験対策については連携を下記の通り行っている。 ・J-WEBというネット上での試験対策を実施 ・年に2回教育部会を実施しグループ9校で情報共有・問題の分析・作成を行っている。 また、その成果がでている。 学校独自では通常授業以外に特別講義を行い、在校生・卒業生の希望者が受講できる体制をとるとともに、在校生は勉強合宿を行い成果に繋がっている。 一部の資格は講師の見直しを行ったことで少しずつ成果が出てきている。		
	4-15-1 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	SNSで卒業生と繋がりが続いている。学科やキャリアセンターを中心に卒業生の就職先訪問や、活動の取材をして入学案内やHPで紹介するとともに在校生、オープンキャンパス参加者に向けてゲスト講師として講演をしてもらっている。	卒業生から求人をいただく機会もあり(TSRの学生をターゲットとした求人)、長くTSRに帰属意識を持ち続けてもらっている。実習依頼をすることも多く、卒業生のスポーツ現場での活躍を目にする機会も持っている。 但し、廃科となってしまった学科の卒業生は学校ではなく元担任と繋がっており、個人同士の繋がりで完結してしまっている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
5 学 生 支 援	5-17-1 退学率低減の為の取組みを行 なっているか。	3	毎年、各科総括をおこない年度当初に学校全体の教育方針を受け学科方 針を作成し、キャリア教育段階をイメージし、学生のモチベーションが高まる ような、年間スケジュールを作成している。 全学科、単位制を導入しており必修科目以外に自由選択で興味のある科目 を履修することを可能とし、学生のモチベーションの持続に繋げている。	姉妹校とのダブルスクール生の学習負担が大きく途中で断念してしまうケー スがある。 あこがれだけではやり切ることが厳しいことをオープンキャンパスで説明し、 覚悟を決めての入学を促している。 定期的にダブルスクール担当者会議を実施し、学生の問題の共有とサポー トを検討している。	3	●学生サービスセンター・慶生会クリニック・滋慶トータルサ ポートセンターの設置で留学生や学生の悩み・進路相談・資格取得のアドバ イス・健康管理まできめ細かな支援がなされています。 課外活動もサッカー部・バスケ部などの設置と活躍で、活力 がまず体制づくりの努力が目を引きます。 ●サポート体制が整備されており、入学前～卒業までの支 援が明確にされている点は高く評価できる。支援体制は、学 習継続性・成果達成において重要なものと思う。 これからは更に、保護者との連絡・出身高等学校との連絡 回数を増やし情報の共有とともに、大きな支援組織の地盤 づくりを強化してもらいたいと思います。 ●この業界で、貴校OBと出会うことが非常に多く、卒業後も 同窓会などを通じて貴校がハブとなり卒業生の活躍を支援 していると感じます。 ●コンディショニングセンターを卒業生に開放していることを すばらしいと感じた。 ●課外活動の支援において教員の方々の負担が増えてい ることが心配。適切なルール作りや負担の平準化に取り組 んで欲しい。また、インカレサークルで他校学生の対応も行 う上でリスクが高まっていないか心配である。
	5-18-1,2 留学生支援も含め、学生相談に 関する体制を整備しているか。	3	留学生に関しては、学生サービスセンターが在留資格の取得・更新等の各 種入国管理局に対する手続きや生活、言葉の不安に対応できる体制を取っ ている。また、日本人学生も含めて、①精神面②学費③健康面などの相談 を受入れる体制を整備している。	入学時に留学生オリエンテーションを行い、日本での生活習慣や日本人学 生との関わりを説明している。また、在留についての相談窓口も明確にして いる。 卒業後の進路は帰国するケースが多いが、外国人留学生キャリア形成プロ グラムの認定を受けたため、就職支援の強みとなっている。 姉妹校の日本語学校から毎年、留学生が入学している。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支 援体制は整備されているか	3	高等教育の修学支援新制度の認定により多くの学生が給付・減免の支援を 受けることが出来ている。学費分納制度や延納制度、教育ローン等も含め て学費に関する相談を学生サービスセンターが窓口で受けており、学生の 状況により、学校長の最終判断により対応している。 経済支援の情報は学生だけでなく、保護者宛にも同様の案内を送ってい る。 学籍簿からも情報を拾い、支援に該当すると思われる家庭には電話等での 案内もしている。	経済的支援は個別性の高い相談になる為、対面で資料を用いて対応する 事が望ましい。 高等学校で修学支援制度の説明を受けていないケースを目にする。 修学支援の拡充に伴い制度が複雑化、一人歩きしている。学生、保護者が 理解をすることが困難である。 入学前より入学後の相談が多い。		
	5-19-2、3 学生の健康管理や、学生寮等、 学生の生活環境への支援は行 われているか。	3	学園が運営する「慶生会クリニック」「滋慶トータルサポートセンター」が学生 の体と心の健康管理をしている。毎年実施する健康診断で再検査になった 際に慶生会クリニックにて再検査を受けることができる。 また、学園本部では学生寮の運営もしており、寮生については寮長と担任 が情報の共有をしている。	慶生会クリニックの診療科目は内科・歯科であり、学生は診察費(治療費) が無料となっている。インフルエンザやB型肝炎等のワクチンの優先接種が 可能である。寮本部と担任で気になる学生の学校内外のサポートを行う場 合がある。 本校はスポーツ活動も盛んであり、姉妹校の東京メディカル・スポーツ専門 学校が運営してる治療院も利用が可能である。 実技授業や部活動でケガをする場合もあり、学生損害保険で対応を行って いる。		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は 整備されているか	3	各種部活動は専門学校の大会でも実績を残している。 男子サッカー部、女子バスケ部は優秀な成績を収め、学校から連盟登録 費、公式戦ユニフォーム、用具等を支援している。 近隣の姉妹校とのインカレサークルもあり多くの学生が参加をしている。	練習場所の確保や試合引率等の担当教員の負担が大きい。特にスポーツ 系のインカレサークルは本校の職員が他校の学生の対応もしているため、 部活動ごとにサブ担当者を置き、1人に業務が集中しないよう工夫が必要 となる。		
	5-20-1 保護者と適切に連携している か。	3	入学時に保護者会を行い、保護者の方に学校の体制を理解していただく機 会を持っている。(遠方の方や忙しいご家庭向けにオンラインやオンデマンド での参加が可能)定期試験結果の発送や出席率について問題のある学生 の保護者に対しては、即座に連絡し連携を取れるようにしている。また、保 護者向けポータルサイトより出欠確認等も可能となっている。 学生の問題の兆しが出たときから連絡をして、良いことも含めてこまめに連 絡をするようにする。 成績および出席不良者は保護者同席で面談を行い状況の説明を行っている。 。	出席率の問題は、単位未修得に繋がるため、保護者との連携が重要であ る。高校新卒の未熟な学生も多く、出席、成績、就職、奨学金の手続き等、 状況に応じて保護者の支援を仰ぐため連携を大切にしている。また、修学支 援制度を利用している学生は支援継続の為に保護者との連携は重要であ る。		
	5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	3	卒後の転職・就職支援を実施している。資格対策講座を中心に、卒業後の キャリアアップ支援を行っている。 同窓会HPやSNSを通して、情報提供・転職支援を行っている。	卒業生からの相談、問い合わせには可能な限り対応している。就職支援だ けでなく卒業生の就職先との連携やセミナーの協力などコンテンツや施設の 提供も含めてサポートを行っている。特にコンディショニングセンターでは、 学校主催のセミナーだけでなく業界有識者がトレーナーの知識向上のセミ ナーを開催し、在校生および卒業生の多くが参加をして人脈を築いている。		
	5-21-3 社会人経験者のニーズを踏まえ た教育環境が整備されている か。	3	社会人の再進学に関しては、状況を想定して学則で制度を明確にしている。 学び直しに対応できるよう、委託訓練、教育訓練給付金の認定を受けてい る。	スポーツビジネス科では、社会人のキャリアチェンジに対応する教育訓練給 付金の認定を受けている。また、フリーターの正規雇用を目的としたハロー ワークの委託訓練の認定も受け、高校新卒だけでなく幅広い年齢層に対し ての教育環境整備に取り組んでいる。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
6 教育環境	6-22-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	定期的に、建物点検を行い法令や設置基準を遵守できているかチェックを行っている。 施設・設備の貸出しは規約を設けた上で、積極的に行っており、多くの卒業生や講師が利用している。 改装については、大きな費用が必要になる為、5ヵ年で計画を立て、費用の積立も行っている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげる。授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。スポーツ業界は急速に変化するため、先を見た環境の整備が必要である。 多くの学生が利用しているトレーニングルームは特に整備に力を入れており卒業生の勤務する企業がメンテナンスを実施している。 2024年度よりオープンしたコンディショニングセンターは学生の授業だけでなく業界に利用も多い。	3	●講師の契約時に防災の対応項目を加味するなど、防災に対する意識の高さが感じられます。同時に災害時には全学生が3日間生活できる(食料・水・簡易トイレ・発電機・AED等)の整備は高く評価されるべきことだと思います。 学外実習やインターンシップでは可能な限り、中学校・高校の各種大会に補助スタッフや外部指導者としての派遣を研修の一環としてもらいたいと思います。 ●教育施設が業界との連携拠点としても機能しており、教育、社会連携という構図が実現できている。 ●3.11を教訓として、防災に対する安全管理体制がしっかりと整備されていることを知りました。素晴らしい取組だったので見習いたいと思います。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	学外実習に向けての教育は実習前後教育期間を設け実施している。 内容として、対象者を集め実習要項をもとに実習前・後教育を行っている。 関連企業に来校いただき研修し、外部実習に臨む体制ができている。 学外実習時には受け入れ先に実習評価表を作成して頂き、客観的視点で点数を付与する仕組みである。	学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である『実学教育』『人間教育』『国際教育』の全てと関わることになり、その教育効果は大きいと考える。海外研修は価格の高騰で例年通りのプログラムが実施できていない。また、修学支援制度利用者が多いため、経済的にも海外研修費の捻出が厳しい家庭が増えてきている。教育提携先のドイツ・アイントラハトフランクフルトからスタッフが来日してサッカー指導、チーム運営に関して講義を行った。少数ながら留学を希望する学生もあり、本人の希望と受け入れ先のマッチングを行い実施している。		
	6-24-1,2 防災に対する体制と学内における安全管理体制が整備されているか。	3	防災に対しては、マニュアルの整備、スタッフの役割分担、学生への情報提供など体制の整備はされている。救急時における機器・備品も準備されている(全学生人数分の3日間分の食料、簡易トイレ、備蓄水、発電機、AEDなど)。 地震、津波、火災の被害を想定した訓練を実施している。 緊急時に学生・職員の安否確認が取れるようアプリ登録を徹底している。 授業中の災害発生時に備え、講師研修の中でも災害時の対応について説明をしている。	学内での対策とは別に、学園での安全管理委員会も定期開催されている。各校の取組の紹介および対策についての情報交換を行い、本校では次年度、太陽光パネルを設置し大規模停電に備える動きを計画している。また、災害時の災害対策本部運営に関しても重要と捉えている。 災害のケースに応じて整備するものも多く、江戸川区が開催している大規模災害時対応研修にも参加をして情報を得ている。江戸川区や東京都の災害アプリを活用することで被害状況、避難場所や配給場所などを把握することができる。		
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校に対し教育活動等の情報提供を行なっているか。	3	対高校の窓口として広報センターを中心に、高校で進路ガイダンスを実施、情報提供している。学校説明会ではなく、入学者の高校を訪問し、学生の状況を報告するとともに入試や学校の取り組みの情報提供活動を行っている。	在校生の成績報告や卒業生の就職・資格取得実績を訪問して報告している。実習で母校の部活動サポートをするケースもあり、教育内容を理解していただく機会もある。高等学校からの依頼により総合学習としてスポーツの学校での学びや職業観についての授業を行っている。	3	●学生募集に関しては定員を上回る志願者と入学者の確保がなされていることは、しっかりとした教育が評価されている証です。 また入試の選考や学納金の納入も的確に厳正に行われていきますから安心感があります。 ●スポーツ・医療分野の専門職を目指す若者にとって、志望動機や目的意識は非常に重要な資質であり、それを選考段階から重視している点は、養成教育機関としての質保証にもつながっていると思う。
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行い、選考に関する実績の把握ができているか。	3	入学選考に関しては、基準を募集要項に明示し、決められた日程に実施している。 選考終了後は、「選考会議」で可否を確定する。面接結果、書類内容、選考試験などの結果を踏まえ、将来スポーツ業界で働くことに適性があるかを総合的に判断している。	将来の希望分野への適性を適切に見極めるため、面接試験の比重を多くしている。面接(面談)の際には、本校の教育内容と本人の希望する職種にミスマッチが起きないように説明も含めて実施をしている。選考は学力のみにとらわれず、モチベーションが高く目的意識がしっかりしている学生の確保をしている。 合理的配慮の申し出があった際に、入学希望者が求めている事と、学校が出来る事に乖離がある。		
	7-27-1,2 学納金は妥当なものとなっており、入学辞退者に対し適正な取扱いを行なっているか。	3	学納金は、その学科の教育目標達成(卒業時の到達目標)を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費(講師・教職員)、実習費、施設管理・運営費等に当てられている。納入書発送の際に、徴収する金額の詳細を明示している。また募集要項にも前年度実績を明記している。	入学辞退者の取扱い慎重に行っており、入学事務局が学費の取扱いを説明をしたうえで辞退処理をしている。基本的には入試制度にとらわれず入学金以外は返金を行っている。		
8 財務	8-28-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	毎年事業計画書を作成し、5か年の収支予算を立てている。その中で入学者数、在校生数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握している。 また新学科構想、設備について計画し、支出予算を作成している。借入金等長期資金の計画については、都道府県の基準の範囲内で計画・実行している。これらは理事会・評議員会にて承認、報告がなされている。	体制を整えるべく、学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。学園内に常任監査室を置き、内部監査も施している。	3	●財務体制の基盤は安定した学生募集と的確な組織運営だと思います。 滋慶学園全体として、他の専門学校が学生募集で苦戦し閉校・撤退の動きがある中で健全経営が出来ていることにまず高い評価ができます。 法人本部の役員・担当者の総括能力と長期計画・中期計画が世の中の動きの変化に対応出来ている証です。 計画に沿って予算を計上して適切に管理運営されています。 ●財務面からも中長期的に支えられる体制が十分にあり、運営の信頼性と安定性がある。
	8-30-1,2 財務について会計監査が適正に行われているか	3	私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。 外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備した。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。定期的に会計士が学校会計の確認を行っている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
9 法令等の遵守	9-32-2 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	学園全体で、各業務に関するコンプライアンス研修を毎月行い、年間フローに落とし込んで漏れのないように進めている。 法令、規則、規定に関してはグループ校コンプライアンス担当者で情報の共有を徹底している。学内では事務局長、学生サービスセンター長が相談窓口となり、学校運営および教職員に対し適正な対応を行っている。	コンプライアンスについては、学園全体で力を入れて取組んでいる。本校では、学校長、事務局長、コンプライアンス担当者(学生サービスセンター長)が中心に整備を行っている。 法令遵守は最優先事項と捉えており、年々研修のボリュームも増えている。法令に縛られ動きが消極的にならないよう制度を理解する事が重要である。	3	●学校運営は設置基準を厳守しながら、さらにコンプライアンス委員会を設置して組織全体で法令の尊守・高い倫理観を求めている点が高く評価できます。 また個人情報の保護管理についても、組織をあげての取り組みが“一般社団法人日本プライバシー認証機構”から全教職員が認定証を取得できていると評価します。 ●個人情報管理やコンプライアンス対応は、スポーツや医療領域での実習・指導にも通ずるテーマであり、教育機関として模範的な取り組みがなされていて、社会的信頼と説明責任を果たす体制が確立されている。 ●本会議の実施やデータの公開など透明性の高い運営に好感を持ちました。
	9-33-1 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	教職員に対しては、就業規則等にも個人情報保護を明記すると共に、定期的な教育・研修を実施し受講者に試験を行い合格者には終了証を交付して周知徹底を図り、併せて各人より「個人情報保護誓約書」を提出させている。 個人情報を取り扱う業務の外部委託先については、「選定チェック表」により審査をし、業務委託時には「業務委託契約書」に保護を明記させ「個人情報保護誓約書」を提示させている。マイナンバーの導入等、制度の変化により全職員向けに研修を実施しており、毎年更新の研修も予定されている。また、実習へ参加する学生向けに、実習先での個人情報保護の遵守及びITリテラシーに関する勉強会を実施。	外部機構の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年ライセンスを更新している。 個人情報特定の為の洗い出しを行い、教職員に何が個人情報に該当するのか認識をさせると共に、保管方法・保管期限を考える機会を設けている。毎年、IT・DXリテラシーの確認試験を教職員、講師、学生が受験をしており、SNSを含めたトラブル防止に努めている。		
	9-34-1.2 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努め、その結果を公表しているか。	3	自己点検、自己評価委員会を発足させて、毎年6月中に、完成させており、ホームページにて、公開している。	自己点検・自己評価を実施する中で見えてきた改善項目は学校責任者を中心に関係部署リーダーにて対策を検討している。評価結果は学校関係者保護委員会にて更に評価を得た後に、HP上に公開をしている。自己点検に併せ、第三者評価(外部評価)も受審して認定を受けている。この外部評価は今後、学校教育法の改定により様々な制度に紐づくものとなり義務付けられていく方向性である。		
	9-34-3.4 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価結果を公表しているか。	3	学校関係者評価委員会を実施し、自己点検・自己評価の報告をし、更に評価を行っている。評価結果についてはHPにて情報公開を行っている。	情報公開を義務付けられており、評価結果も公開項目となっている。情報公開のメニューはトップページの学校名の並びに表示している。 この情報公開は高等教育修学支援新制度でも必要である。		
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	東京都、江戸川区の教育機関や江戸川区体育会、また各企業、団体との連携を行っている。 CLUB-TSRという形で、地域スポーツクラブを行っている。 地域への開放は行っている。災害時における協力関係に関する協定を江戸川区と結んでいる。	カリキュラム作成時やCLUB-TSRを運営する際に地域への貢献を視野にいて考える習慣をつけるよう会議等で職員に啓蒙していく。中学、高校の部活動指導(トレーニング)を行い、中高教員の業務負担軽減としても貢献をしている。 スポーツビジネス科、スポーツトレーナー科の学生が中心となり企画・運営をしている「Xカップ」は3回目の開催となり、高校生＆Bリーグユースの恒例のバスケの大会に位置づけられている。	3	●3回目の開催となった[Xカップ]バスケ大会は、開催地ばかりから出場する高校生にも大きな励みとなる企画だと思います。 学校の施設や学生そして教職員の教育資源を活用した活動は高く評価ができます。 さらに期待を込めれば、中学校の部活動が働き方改革と指導者の人材不足から停滞期に入っていますから教育委員会や各学校に働きかけて、部外指導者として学生を派遣する試みを期待します。 ●全体として、学生の実践的成長と社会貢献が結びつく教育設計がなされていると評価できる。 ●学生が主体となり開催しているXカップは、素晴らしい活動だと思います。今後はバスケ以外の、マイナースポーツの発展に繋がる活動にも期待します。 ●Xカップの取り組み動画を拝見し、すばらしいと感じた。同時にこのような機会を使って参加学生に対して、薬物・オンラインカジノ・SNSなどのリスク啓発研修等を行うと教育機関として更なる社会貢献ができると考える。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	2	ドイツ・ブンデスリーガ1部のアイントラハト・フランクフルトと国際教育に関する提携契約を締結。また、アメリカ・フロリダのIMGと教育提携。毎年、契約内容の見直しを行い、学生や業界の状況に応じた教育の提供を行っている。コロナ禍で渡航ができなかったが、研修再開に向けて準備を進めている。	海外研修は数年、コロナ禍により実施ができなかった。その後、インフレ、円安、ロシア・ウクライナによる航路変更などの影響により研修費用を抑えることが厳しく実施に至らなかった。 国内での国際教育として、海外での活動経験があるスポーツ系職種のゲスト講師の講演など各学科で企画をして実施した。学校全体では教育提携をしているフランクフルトのスタッフが来日して授業を行った。 日本語学校の依頼により、卒業後の進路選択や日本での就職に関する出張授業を行った。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し活動支援を行なっているか。	3	ボランティアとして各種スポーツイベントに参加をしており、それを実習と同様に学生からの報告を必須として、評価、記録を残している。各種スポーツの大会運営に関しては毎回、声がかかりボランティアではあるが学生にとって良い経験の場となっている。	大会ボランティア活動に関しては、教員も参加し学生の状況を確認しながら評価を行っている。学校へのボランティア依頼があった際には、事故やケガの対応を含めて参加要項を確認して募集を行っている。スポーツ関連のボランティアは実習以外にも現場を経験する機会となるので積極的に募集をかけて参加を促している。毎年、天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会やJFAユニクロサッカーキッズなど恒例でJFAからのボランティアの声がかかっている。また、千葉県の高校バスケの大会でもトレーナーブースの依頼があり、学生の実習の場にもなっている。		